

「食の安全・安心シンポジウム」アンケート(集計結果)

2010、10、21

平成22年10月21日(木)にコラボしが21で開催しました、標記シンポジウムにおいて実施しましたアンケート結果は次の通りでした。

(参加者：145名、回答者：103名、回収率71%)

問1 あなたについておたずねします。

年齢

30歳未満 (12)	30歳代 (20)	40歳代 (11)	50歳代 (30)	60歳以上 (30)
---------------	--------------	--------------	--------------	---------------

性別

男性:(47) 女性:(56) 無回答:(2)

職業等 (無回答:2)

消費者(団体関係者含む) :(22)	生産者(農家、団体関係者含む) :(18)
食品製造業者(団体関係者含む) :(15)	食品流通販売業者(団体関係者含む) :(8)
行政 :(29)	その他:(9)(健康推進員、分析事業者ほか)

問2 話題提供「食の安全・安心と食品のリスク評価について」の内容はいかがでしたか。

理解できましたか。 (無回答:1)

よくわかった (35(34%))	だいたい わかった (61(59%))	あまり わからなかった (6(6%))	わからなかった (0(0%))
---------------------	---------------------------	---------------------------	--------------------

参考になりましたか。 (無回答:2)

なった (56(54%))	少しなった (40(39%))	あまり ならなかった (5(5%))	ならなかった (0(0%))
------------------	--------------------	--------------------------	-------------------

問3 パネルディスカッションについてについて

パネルストの意見は参考になりましたか。 (無回答:7)

なった (39(38%))	少しなった (50(49%))	あまり ならなかった (7(7%))	ならなかった (0(0%))
------------------	--------------------	--------------------------	-------------------

問4 質疑応答・意見交換について

参加者の意見やそれに対する回答などは、参考になりましたか。 (無回答:11)

なった (32(31%))	少しなった (48(47%))	あまり ならなかった (10(10%))	ならなかった (2(2%))
------------------	--------------------	----------------------------	-------------------

問5 情報コーナーの設置について

内容はいかがでしたか。(無回答：8)

良かった	まあまあ 良かった	あまり 良くなかった	良くなかった
(31(30%))	(61(60%))	(3(3%))	(0(0%))

参考になりましたか。(無回答：9)

なった	少しなった	あまり ならなかった	ならなかった
(37(36%))	(54(52%))	(3(3%))	(0(0%))

問6 全体について (無回答：10)

良かった	まあまあ 良かった	あまり 良くなかった	良くなかった
(30(29%))	(58(56%))	(5(5%))	(0(0%))

問7 今後、このようなシンポジウムを開催した場合、参加されますか (無回答：7)

参加する	テーマによっ ては参加する	あまり 参加したくない	参加したくない
(31(30%))	(62(60%))	(2(2%))	(1(1%))

問8 今後、シンポジウムを開催する場合、どのようなテーマを望まれますか。

消費者
・食料自給率40%をどう考えるか、将来食べられなくなるかも... 消費者と生産者と行政で考えてみたい
・滋賀の食文化と安全・安心。
・安全・安心だけでなく、安定供給・食料安全保障上のテーマでもして欲しい!
・生産者、販売者、消費者の立場での話し合い
生産者
・今回と同様、食の安全・安心はいつまでも継続されなければいけないのでこのタイトルでお願いしたいです。
・地産地消の食物について。県内の生産物はどのくらい、地域ごとに、どのような生産量があるか、それが、どこへ流れていくか?(流通)など
・安全・安心な農産物の生産現場からの話題提供を行ってみては? 例・減農薬野菜、米の生産者
・環境、地球温暖化
・食育の現状やこれからの展望について
・食品表示の見方
食品製造業者
・クレマー対策など。衛生とは、もっと かみくだいて下さい わかり易く
・食の安全・安心に伴う環境について=いろいろな業種による環境をどのように連動していくのがいいのか!!
・味覚 伝統
行政
・食と健康の関わりについて
・食のテーマは広い範囲にまたがることから、できればある程度食品を限定して議論してはどうだろうか。例えば、今回、一 あったが、農作物などテーマをきめて実施されたい。
その他
・メタボに関すること 正しい知識と改善策など
・農薬の種類とリスクについて
・地産地消について 旬の食材について 国産品、輸入品について

問9 ご意見、ご感想をお聞かせください。

消費者

- ・前文に知事の想いが加わっていることは 県民としてうれしく思いました。
- ・分散会、サイエンスカフェのような型でのフリートークが出来たら良かったと思いました。
- ・すべての食品が安全であってほしい
- ・食の安全性は、生きていく為には、一番大事な事と思っております。それぞれの事行体において、お取り組みをし

ていること、発表されることも大事であるが、一般消費者との取組とを一緒に発表されるとよいように思いました。

- ・ 国産品がすべて安心と言うわけではないとは思われますが今日の日本の食については中国を抜きに考えられないのが現状かと思われます。又、中国の問題を無視できない世情でもあります。日本の自給率を上げる政策をリンクして「安心安全」を確保できる事がこれから先の問題ではないかとも思われます。
- ・ 滋賀県、食と農のコーディネーターをさせて頂いておりますが、質疑応答、意見の交換会の場に於いて、生産者と消費者のパイプ役としての役割の大切さを楽しみ感じました。消費者も、蓄農産物の生産履歴を学習し、価格の比較で物を買うのではなく、安心、安全な生産物を手に入れる為の適正な対価を認識し 地産地消の輪を広げたいと思いました。頑張ります。
- ・ 話題提供の講演は非常に解りやすく良かったです。かつて情報の少ない時代に食の安全や環境に関連する運動をしてきましたが、当時もそれなりの実験をしてきました。それが過激だったことを、なつかしく思い出します。今は今日の講演のような内容を正しく広く伝えて欲しいと願っています。テレビや新聞の広告、折り込みは本当に「不安便乗ビジネス」で、規制がないのが残念です。私たちが消費者力をつけることが大切ですが、中々、遅々としてすすみません。このシンポジウムで食品衛生協会の話聞いたのも良かったです。後継者の育成について取り組まれていることが素晴らしい！ サプリメントについては、是非、基準案を検討して欲しい。

- ・ 最後に大谷先生のまとめがほしかった。
- ・ 質問は 休み時間に集めて 代表的に答えると とても良いと思う
- ・ 農政は、情報開示がいいかげんだ。例えば コシヒカリ・新米と表示があっても他の種や古米が混合されていてもコシヒカリ・新米と表示が認められている。これを、コシヒカリ何%、新米何%と細かく表示すべきだと思いが？
生産者

- ・ 『安全（科学的根拠が必要）・安心（受け手により違いがある）』ということがわかりすごく納得できました。自分が普段何気にしている「ご飯」ですが、みんなのおかげ（造る側・食べる側・管理する人等）で守られていると改めて実感できました。ありがとうございました。
- ・ 様々な立場で、食について取りくまれている方のおはなしは参考になった。パネリストの方も資料がある方がわかりやすかったです。
- ・ コーディネーターの柴田さんの進行が大変良かったと思います。
- ・ 生産 流通 消費 この流れの中に「信頼」が低下している。この間に、経済が入りこんできて、大変複雑でややこしくしている様に思う。各パートにおいて信頼を回復する努力をすべきであると思われる。食品の安全性を知る為に、より詳しい検査が行われている。大変いいことだが詳しく知られすぎて（情報が多すぎて）よけい不安になっているのではないか。もう少しでいいので、生産現場を消費者が知る機会を作るべきではないか。条例、規則を作るのもいいが、やはり現場を知ること大切であると思われる。

食品製造業者

- ・ 時間的に区切りをつけて終了となっていたが 最後の方の発言が中途になったのが・・・ どうか？ と思う。
- ・ 食事に不安を感じるのが異常な時代だとはいえ、信頼されていないそれをかんがえなければならない時代というのがむなしの限りです。
- ・ 本日はありがとうございました。
- ・ 各種講演会、シンポジウムは、10月～11月、12月上旬に集中する。10月下旬～12月は止めてほしい。この時期設定は、机の上で仕事をしている人の発想でしょう（？）

食品流通販売業者

- ・ 報告会から一步入って具体性があればよいのでは！

行政

- ・ パネルディスカッションについては、パネラーの取組紹介にとどまり、相互理解には至ってないように感じた。せめて、パネラーに市民代表の方を加えるなどしてもよかったのでは。
- ・ 保健所単位で、リスクコミュニケーションを積極的にされている等、参考になることがたくさんありました。
- ・ 会場は、パネリストが見えるような構造の方がよい。

その他

- ・ 安全・安心というタイトルがあったので、身近なものについての話と思っていたのですが、少し内容がよくわからなかった。（話題提供の話） パネルディスカッションは身近な話もきけたので聞きやすかった。
- ・ 消費者が安心して食せる食品、又良い品を安く、生活しやすい国を作ってほしい。低所得者が生活しやすい政治をやってほしいです。
- ・ 食の安全、安心の言葉に対して「リスク」いつも受けるのは消費者です。動物実験の結果から十分に余裕をもった値といえども厚労省、農水省、消費者庁と三者庁が一つの物に対してわかれて取り合っている事が何かおかしいと思います。人間の一つの口から入っていく物に対してやはり一つの省庁で全体を何もかもつかんで発信されなければならないと思う。
- ・ 日頃の大ざっぱな食に関する思いを改める必要性を感じました。最近、観光の一つとして道の駅へ立ち寄る機会が増えましたが、今後はまた違う意味をもって、寄ってみようと思いました。
- ・ 消費者自ら食の安全に関する情報など、正しく知り考えていくようにしなければと再確認しました。ありがとうございました。
- ・ 情報コーナーの設置について 事前に照会をして欲しかったと思います。